

《潮見台地区小中一貫教育目標》

未来を生き抜く力を育む教育の推進

《教育目標》

平和を愛し理想の実現に向かって自己を高める

- 学習計画を根気強く実行する人
- 節度ある生活態度で協力する人
- 心身ともに健康で美を追求する人

キーワード

- ・リアルタイムで考える
- ・多様性がある世界
- ・幸せを感じる時
- ・「逃げちゃダメだ」
- ・長いトンネル
- ・持続可能なPTA

目次:

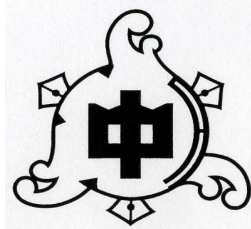
新しい小樽を担う子どもの育成	1
学校司書“推しの一冊”	2
「人権教室」真剣な反応 潮中生の姿キラリ輝く	3
最後の文化祭を終えて 3年生の感想より	4
4年ぶりの地域公開 他	5

ホームページアドレスとQRコード
http://
www.otaru.ed.jp/
shiomidai/



絆づくりメッセー
ジコンクール
中学の部 団体
奨励賞
だ い じ よ う ぶ
君はゼツタイ一人じゃない

一年二組五班
櫻井 晴子
千葉 直輝
小貫 莉奈
中野 菊之助 (敬称略)

学校だより
み お

水脈

第8号

小樽市立

潮見台中学校

小樽市潮見台1丁目17-1

TEL 0134-33-1080

1. 新しい小樽を担う子どもの育成 校長 高橋 恒雄

かなしきは 小樽の町よ
うたうことなき人々の声の荒さよ
石川 啄木

小樽の町を臨む神社の境内に、そう刻まれています。

大学を出たての私が赴任した33年前の小樽には、その「荒々しさ」がまだ残っており、この歌に得心したのを覚えています。中学生を相手に、授業を成立させることですら苦勞していた私は、授業に魅力をつけようと新聞教材を取り入れたり、課題であった「読む力」をつけようと学校図書館を活用し朝読書を試したり、「表現力」をつけるために川柳づくりに取り組んだりとできることを手当たり次第取り組みました。その中で「行動すれば、子どもが変わる」という手応えと一教員ができることの限界を実感することになります。

ミーティング

顧問の涙にぐっときた

潮見台中3年 吉田 海
どうしん川柳10月25日掲載作品

「うたうことなき」と評された小樽の町の子どもたちの作品が、今年も何度も北海道新聞の読者欄に掲載されています。本校を含め複数の学校の取組になっており、今年度だけで30句以上採用されています。わが町小樽に表現する文化が広がっていることを実感します。それは、小樽市が市として取り組んできたことの成果といえるでしょう。

「おたる子どもの詩コンクール」「音読カップ」「青少年読書感想文コンクール」等、表現活動に励む子どもの数は年々増えており、目の輝きは増えています。

縁あって、今も私は小樽の学校に勤務していますが、目の前の子ども達にかつての「荒々しさ」はなく、学校は静かな「朝読書」に始まり、図書館には専任の司書がおり、放課後には「文化系部活」のクリエイティブな活動が展開されるという素敵な学習環境が整っています。本校では、この恵まれた環境を活用して、受験生に向けた「新聞教材」の定期配布や時事問題クイズのコーナー設置、PTAや学校関係者、大人も借りられる「まちなか図書館」の開設等、学校司書や市立小樽図書館の力を借りて環境整備を進めてきました。

更に10月からは、毎週金曜日の朝に、全学年を対象とした『NIEタイム(新聞を活用した学習)』を始めました。新聞の記事を1つ読んでわかったこと、感じたことを簡単な文章で表現する学習です。発展学習として、各教科で学ぶSDGsに関連付けたり、「俳句や川柳」の作品につなげる学びも設定しています。

もともと文化的な表現分野が得意な本校生徒です。社会の出来事リアルタイムで考える学習が加わることで、どんな化学反応が生まれるのか今から楽しみです。



2. 学校司書“推しの一冊”

風が冷たくなり少しずつ冬の訪れと朝晩の寒さを感じるが多くなりましたね。体調管理に気をつけて元気に過ごしていきましょう。

市立小樽図書館より2学期のスクールライブラリー便が届いています。12月14日まで借りることができますのでぜひこの機会に読んでみてください。(文責：伊原 真実)



中学生になったばかりの少年が様々な経験を通して悩み、考え、成長していく。人種差別・貧富の差・アイデンティティー。世界には数えきれないほどの問題がある。多様性がある世界で大切な事とは…

ぼくはイエローでホワイトで、
ちょっとブルー
/ブレイディみかこ著
新潮文庫 2019年

3. 「人権教室」な反応、潮中生の姿キラリ輝く

人権擁護委員の方々をお迎えし、「人権を守るってどんなこと？」と題して講話をいただきました。3年本藤詩菜さんは感想文に次のように書いていました。「普通に学校に通って学ぶということは、違う国にとっては普通ではないことに改めて気づきました。公民の授業で、もっと『人権』について学びたい。学校で学習できて、いじめがなく楽しく過ごしていることに幸せを感じました。」



4. 最後の文化祭を終えて 3年生の感想から

私の文化祭での思い出は準備期間です。3年連続で「イベント」でした。先生方に「お世話」をしたり、他班のドア手作りの手伝いも楽しかったです。友達と盛り上がりながら絵具で段ボールのドアを塗ったり、ドアの枠用の木材を切ったり・・・これが「生きる」ってことか、と感じました。文化祭が終わり、受験が近づいてきます。正直勉強はしたくありません。しかし、碇シンジ君が「逃げちゃダメだ」と言っていたので、私も逃げずに頑張ろうと思う。(森田維弦さん)



文化祭作品

今年の文化祭は、「日々の生活からの解放」ということで去年とは全く異なったものとなりました。画面越しではなく、実際に体育館で味わう文化祭は、みなさんにとっても新鮮なものとなったのではないかと思います。一人一人が自分がやるべき事を果たし、全力だったからこそ、最高の文化祭にすることができたのではないのでしょうか。私自身も、緊張や不安という「扉」を越えて一歩先へ進めた気がしました。私達3年生にとって最後の文化祭、皆で力を合わせて思い出に残る文化祭にすることができました。(小栗聖名さん)

「今年の文化祭もとても楽しかった!!」

この日の通り、めちゃめちゃ盛り上がりすぎてとてもいい思い出になりました。一日目、残念ながらこの目で見ることは叶いませんでしたが素晴らしい合唱でした。もう加減が壊れるかと思いました。さすがに盛りましたけどそれくらいみんなが輝いていたことです。二日前、私は劇を準備期間中から楽しみにしていたのでわくわくが止まりませんでした。みなさんも劇や「イベント」を楽しんだと思うのでここでは割愛します。フリータイムではこの潮中の体育館に天使が舞い降りました。キレイなピアノも相まって3年生以外も「はわわ。」ってなったと思います。(少なくとも私はそうになりました)今までは「日常」が制限されていたけれど、これからはみんなと一緒に青春できるんだと思うと感無量です。(長南璃音さん)

私は、今年の文化祭で「コミュニケーション」の大切さを改めて感じました。私は装飾系の壁画チームだったのですが、他学年の人たちがいる中で、「コミュニケーション」をとらないと、何をしたらよいのかわからない人がでてしまい、作業が進まなくなったりしました。そこで、「コミュニケーション」をとるように努力すれば、みんながそれぞれの仕事をやってくれ、作業が進み、みんなが楽しく作業を進めることもできました。私はこれからも「コミュニケーション」を大切にしていきたいと思いました。(成田美月さん)



家庭科部作品

5. 4年ぶりの地域公開日参観ありがとうございました!

長いコロナ禍のトンネルを抜けようとしている今、小中クリーン作戦に続き、4年ぶりに地域公開日を実施し、保護者・地域の皆様には本校生徒の学びの姿をご覧いただくことができました。心から嬉しく感じています。今後も、学校行事など、潮見台中学校HPで、お知らせさせていただきます。保護者、地域の皆様のご来校を心よりお待ちしております。潮中生！がんばってます!!!



ことばを感じる

何百枚も売れる
ロックなんて
あんましロック
じゃない
忌野清志郎 1951~2009

